

第1章

プロジェクトの概要

第1章 プロジェクトの概要

1. 取組の概要・内容と年度計画

戦略名： 実践力を身に付け、現代的課題に対応した高度な教員の養成

取組名： 「主体的・協働的な学び」を実践できる教員の養成

—アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発—

計画期間： 平成28年度～平成33年度（6年）

取組概要：

主体的に考え表現する「学習者中心の双方向的な学習」の授業形態（アクティブ・ラーニング）を導入した授業の実施が重要であり、初等・中等・大学教育において「知の活用」「確かな学力」をもった教員育成のため、アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法を開発し、「主体的・協働的な学び」を学校現場で実践できる教員を養成する。更に、現職教員に向けた研修を実施する。

【目的・目標】

学校現場で求められている「課題を発見する力」「情報を読み取る力」「複眼的に物事をとらえる力」「他者と協働する力」等の主体的な問題発見能力や能動的な学修活動能力を育成するために、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を学士課程、大学院課程ともに全開講授業の6割以上で導入する。

【戦略における位置付け】

愛知教育大学は広域拠点型教育大学として、わが国の学校教員のさらなる質の向上を目指している。その戦略の一つとして、実践力を身に付け、現代的課題に対応できる高度な教員の養成が必要である。その戦略を実施するにあたり、学生・現職教員・大学教員を包括的に対象とした本取組は、最優先の位置づけにある。

【必要性・緊急性】

多極化・グローバル化する現代社会の中で、生きる力・人間関係を形成する力など多様な能力をもつ人材を育成することが学校教育全体に求められている。社会全体の大きなダイナミズムに適応するためには、従来型の「教員者中心の一方通行的な知識享受」の授業形態だけでは対応できない。主体的に考え表現する「学習者中心の双方向的な学習」の授業形態（アクティブ・ラーニング）を導入した授業の実施が重要である。

【全体計画】

アクティブ・ラーニング（以下ALという。）を導入した新たな学習指導方法を開発して、「主体的・協働的な学び」を学校現場で実践できる教員を養成するための具体的な取組概要は次のとおりである。

- AL授業が実践できる教員養成プログラムの開発
- AL授業が実践できる現職教員の研修プログラムの開発
- AL授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発
- AL授業の指導方法・教材の開発、AL授業の推進・拡充

【平成28年度：1年目】

(1) 本事業と学生との関連性

- ①本学でアクティブ・ラーニング（以下ALという。）を導入した授業を実施する。
- ②ALを実践できる教員を養成するプログラムを開発する。

(2) 本事業と現職教員との関連性

- ①教育現場にALを導入・実践できるように現職教員を研修・サポート体制を構築する。
- ②本学がALの効果を体感する機会を付与する。

(3) 本事業と本学との関連性

- ①ALを効率的に実施できる学習指導方法を開発する。
- ②より深い学びができるAL授業をサポートするための教材開発を実施する。
- ③教育現場にALを推進・拡充する。

【平成29年度：2年目】

(1) AL授業が実践できる教員養成プログラムの開発

- ①ICT活用指導力の基礎を身に付けるとともに、「いかに学ぶか」も目的とした教員養成ICT活用ワークブックを開発し、共通科目において全学生を対象に実施する。さらに、その有効性や改善点などを明確にし、改善を行う。（次年度以降も継続）
- ②本学で協定が結ばれたクロスアポイントメント制度を最大限に活用し、ICTを活用した教材に関する研究を実施する。
- ③ワークショップ型のFDを開催し、ALに対する未来の教員としての意識改革をはかる。（次年度以降も継続）
- ④TA（ティーチング・アシスタント）・SA（スチューデント・アシスタント）システム制度を設計する。
- ⑤e-learningシステムを活用したAL型授業を試行する。
- ⑥「電子黒板」や「デジタル教科書」を用いた新たな授業形態に対応するために、模擬授業などでこれらを積極的に活用し、その有用性、および改善点などを検証する。

(2) AL授業が実践できる現職教員の研修プログラムの開発

- ①現職教員を対象とした研修の実施について調査・視察し、研修内容および実施方法について情報収集する。
- ②教員免許状更新講習や公開講座などで、試行的にAL活動を取り入れた講習を実施する。

(3) AL授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発

- ①ICTの活用できる学習環境を試験的に導入し、AL型の授業実践におけるICTの効果的な活用法を検討する。
- ②ワークショップ型のFDを開催し、ALに対する教員の意識改革を図る。

【平成30年度：3年目】

- (1) AL授業が実践できる教員養成プログラムの開発
 - ①その他の全学的な授業（初年次・教養科目）等にも逐次AL導入を促進する。
（次年度以降も継続）
 - ②TA・SAシステム制度の試行的な導入を行う。
- (2) AL授業が実践できる現職教員の研修プログラムの開発
プログラム体系の検討を行い、必要となる研修モジュールの概要を定める。
- (3) AL授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発
 - ①ICTの活用できる学習環境において、デジタル教材の利用方法を模索する。また、AL型授業に特化した教室を試験的に導入し、大学の講義等で活用する。
 - ②これまでの活動を総括し、大学教員に対する研修プログラムを素描する。

【平成31年度：4年目】

- (1) AL授業が実践できる教員養成プログラムの開発
 - ①ALルームを使った模擬授業を実践し、ICTを活用した実践的な指導方法を学ぶ。
 - ②TA・SAシステムを本格的に導入するとともに、TA・SAとして、メタ視点に立つ経験を通して、どのような学習観の変化があるかを調査する。
- (2) AL授業が実践できる現職教員の研修プログラムの開発
 - ①計画した研修モジュールの一部を設計・開発し、試行的に実践・評価・改善する。
 - ②現職教員に対してアンケートを実施し、各教科単位におけるAL用教材のニーズを集約する。
- (3) AL授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発
 - ①FDによる授業公開を動画で記録し、学内での閲覧が可能な状態にする。
 - ②大学教員に対する研修プログラムを試験的に実施し、AL型の授業の実現可能性を高める。
 - ③大学教員に対しアンケートを実施し、各教科単位におけるAL教材のニーズを集約する。

【平成32年度：5年目】

- (1) AL授業が実践できる教員養成プログラムの開発
これまで開発してきた教員養成プログラムの効果を検証し、体系化する。
- (2) AL授業が実践できる現職教員の研修プログラムの開発
 - ①開発した研修プログラムを教員免許状更新講習および公開講座等で実施し、学習効果について実践的に評価する。
 - ②AL教材を用いた授業の事例集を作成し公開する。
- (3) AL授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発
 - ①アンケート調査により現状におけるALの実施の問題点、研修プログラムの問題点を把握する。
 - ②学内で実施されているALの授業記録を公開する。

【平成33年度：6年目】

- (1) AL授業が実践できる教員養成プログラムの開発
 - ①教員養成プログラムを受講した教員となった学生への（追跡）調査を行う。
 - ②AL教材の導入実態を調査し，その効果を総括する。
- (2) AL授業が実践できる現職教員の研修プログラムの開発
研修プログラムを広く公開し，他教育機関への普及に努める。
- (3) AL授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発
 - ①大学教員に対する研修プログラムを体系化し，運用を開始する。
 - ②大学におけるAL型の授業を全授業の6割で開講する。